



- ◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。
- ◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。
- ◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

一般質問

9月定例会では11名の議員が一般質問を行いました。本会議のネット中継及び録画配信を行っています。ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。



9月定例会において延べ34名の方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

市長就任後15年、白河をどのように変えてきたか

まず市政懇談会を実施、危機的状況の財政状況改善や各地域の施設を整備

うち温泉など各地域の核となる施設も整備してきた。今後も各施策をバランス良く組み合わせ、誰もが身近な幸せを実感しながら「自分らしく、いきいき」と暮らしていけるまちにしてまいいる。



北野 唯道 議員



Q 市長就任後15年が経過。就任当時と比べ、現在の白河市の姿は何がどう変わったのか、どう変えてきたのか、さらに今後を見据え、何をどう変えていくべきとお考えなのか、市長の所見を伺う。

A 市長就任は平成の合併

が一段落し、各自自治体が様々な問題を抱えつつも特色を活かした振興策を進めていた時期。本市も一体感の醸成や全体の均衡ある発展、財政の健全化など多くの課題に直面していた。危機的状況にあった財政を立て直すため、国・県補助金を積極的に活用することはもちろん、産業振興や企業誘致による税源の涵養・収納率の向上などにより歳入を確保する一方、歳出見直しや繰上償還による債務の圧縮を行うなど財政状況の改善を図ってきた。また、小峰城の国史跡の指定、県内初

東邦銀行跡地利用を含め中心市街地の今後のまちづくりは？

歩いて暮らす人にも環境にもやさしいまちづくりを目指す

A アンケート調査を行うなどして的確にニーズを把握し、地域の実情に合わせた公共交通のあり方を検討してまいいる。



佐川 京子 議員



Q R294号バイパスの開通や東邦銀行白河支店の新白河への移転を受け、その跡地利用も含め今後のまちづくりを市長に伺う。

A 車に頼ることなく歩いて暮らす。まちを歩き行きかう人と挨拶をかわし、馴染みの店で店主と会話を楽しみながら買い物する。隣の町内まで散歩し、庭先の花や路地の景色に感動する。そんな小さな喜びの積み重ねが、本市の中心市街地の未来像と考える。跡地は、地元町内会、関係者とともに検討してま

Q 各町内会毎の防災訓練がもっと必要ではないか。

A 訓練実施(年一回3万円補助)の働きかけや出前講座の実施等呼びかける。

Q 五箇地区でも公共交通の不便を解消して欲しい。

持続可能な農業経営のために!

国による肥料高騰対策申請を円滑に



根本 建一 議員



Q 「農業生産資材高騰対策について」
 国の対策として、化学肥料の使用量低減の取組を前提に、価格上昇率を加味し、コスト上昇分の7割を補填するとし、5戸以上の農家で申請を行うことを要件としている。それぞれの農家がまとめるのは、困難と思われるが、実際にはどのように進められるのか伺う。

A 事務手続きについては、農協や販売店などが5人以上のグループ単位にまとめて一括して申請することを想定している。

Q 「農福連携について」
 農福連携とは、障がい者等が農業分野での活躍を通じて自信や生きがいを出し、社会参画を促す取り組みであるが、農水省の調査によると、農福連携を知っている農家は一割程度であるということから、本市としても、周知や両者のマッチングシステムの構築が必要と考えるが、先進事例を参考にしながら、関連団体や生産者と情報を交換するなど調査・研究を行う。

A 先進事例を参考にしながら、関連団体や生産者と情報を交換するなど調査・研究を行う。



避難所のトイレが使用できなくなった場合の対処は?

段ボール便器と凝固剤で固めて使用するキットを確保している



室井 伸一 議員



Q 避難所のトイレが使用できなくなってしまった場合の対処法は。

A 簡単に設置できる段ボール便器125基を備蓄している。また、既存の便座に袋を付け凝固剤などで固めて使用するキットを5000回分確保している。

Q 白河市ケアラー支援の推進に関する条例について

A この条例を制定するきっかけになったのは、社会問題の一つになっているヤングケアラーの存在である。子どもが、家族の一員として家事や家業を手伝い、親や兄弟の手助けをするのは自然なことではあるが、中には過大な負担により、忘れ物が増えたり宿題ができない、遅刻や早退が増えるなど、学校生活に悪影響が生じているものもある。ケアラーが悩みや不安を誰にも相談できず一人で抱え込み、社会的に孤立してしまうことがないよう、社会全体で共通の課題として受け止め、全てのケアラーが自分らしく、健康で文化的な生活を営むことができる社会を実現するため、県内初となる本条例の制定に至った。



高齢者福祉対策について伺う

新たな視点も加え、様々な施策を展開していく



戸倉 宏一 議員



Q 高齢者が元気でいきいきと活動するための取り組みについて伺う。

A 高齢者の皆様方には本市発展のため、御貢献賜り、今日私達が平和で安全で豊かに暮らすことができるのも高齢者の皆様方のたゆまぬ努力の賜であると感謝申し上げます。

Q 高齢者が安全に車を運転し続けるための取り組みについて

A 高齢者ドライバー事故防止の取り組みとして、加齢に伴う身体機能の変化を理解してもらい継続的な安全運転ができるよう支援してきた。またメーカーでは、「セーフティサポートカー」の開発や普及啓発に取り組んでいる。市においても、関係団体と連携し、各交通安全啓発活動を実施するとともに、今後は家族や家庭において悪天候の際には運転を控えるなどの安全運転について話し合いの場を設ける啓発活動についても検討する。



集会所で行われている高齢者サロンの様子

複合施設整備の見通し

健康増進と福祉の向上へ 健康第一の施設に



角田 議員



Q 複合施設整備事業について、基本設計延長した理由と今後の見通しについて伺う。

A 複合施設は、市民が将来にわたり心身共に健康で豊かな生活を送る重要な施設であるが、ロシアのウクライナ侵攻に起因する物資の大幅な供給停滞、さらに急激な物価高騰により変更を余儀なくされた。

Q 観光PR情報発信事業について伺う。

A 本市には小峰城跡や南湖公園、さらに今、全国的に注目されている白河関跡など、魅力ある観光資源があるので、それらを積極的にプロモーションするとともに、魅力ある情報発信に努める。

Q 白河市過疎地域持続的発展計画案について伺う。

A 本年4月1日、過疎法に基づき表郷及び、大信地域が過疎地域に指定された。
Q 出逢い&ふれあいの会について、結婚を望む人たちが成婚に行きつくような一歩踏み込んだ施策があれば伺いたい。
A 晴れて成婚となった方々へ記念となる品々を贈呈することを検討している。



白河市の今後のスポーツ振興について

ハード面・ソフト面共により力を入れていく



吉見優一郎 議員



Q コロナ禍が終息の見えない状況での、今後の白河市のスポーツ振興をどのように考えているのか市長に伺う。

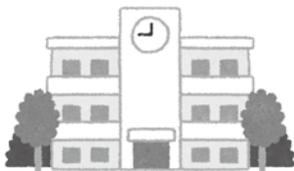
A 全ての人が心身ともに健康で元気に活動できる場所、安心して暮らせる地域をつくり、地域コミュニティの醸成、青少年の健全育成、さらに魅力的な白河をつくりあげていくためにもスポーツの振興により力を入れていく考えである。

Q コワーキングスペースの利用状況及び顔認証システムについて

A 専用端末に登録者の顔を近づけるだけで、入退出の管理、利用料金の計算、クレジットカードでの支払いを利用者と非対面・非接触にて可能としている。現在登録者は19人、述べ利用者数は52人となっている。

Q 統廃合で空き家になった学校施設の今後の利活用について

A 大信の小学校、五箇中学校においては、庁内検討会議の際に市の防災備蓄倉庫・避難施設・給食センター・民間活用での農産物の加工や直売施設・高齢者介護施設などの意見があったが、今後は地域懇談会を開くほか、様々な方々の意見を丁寧に向いながら検討してまいります。



停滞する社会活動の回復対策は？

市民が活動を安全に再開できるよう各種施策を進める



石名 国光 議員



Q コロナ禍で停滞する社会活動の回復対策について市長に伺う。

A コロナ禍により市民の活動が制限された結果外出や会食の自粛・施設の利用制限でイベント・各種行事・自治会活動の停滞などで人と人との繋がりが希薄化し日常生活の彩りが失われ、地域のつながりが重要と再認識した。この2年半疫病に翻弄されたが、大流行したペストやスペイン風邪同様、必ず収束すると予想される。この状況を踏まえ市民の皆様が活動を安全に再開できるよう各種施策を進めてまいります。

Q 十七景松風の里・松虫の原への散策道整備について

A 来訪者の利便性を図るため南湖公園整備指導委員会の意見を踏まえ、文化庁と協議する。

Q 十七景碑の横に市民の和歌などの作品を展示することについて伺う。

A 市民が詠んだ作品を展示するには、場所や展示物の管理方法など検討が必要であり、市民・句会団体からの意見を踏まえ協議してまいります。



子どもの能力に差はない

教員の指導力向上を図る



柴原 隆夫 議員

Q 今年も気候変動による百年に一度と言われる「記録的短時間大雨」が頻発し土砂災害、堤防の決壊、河川の氾濫により大きな災害が起こった。3年前の大雨で破損した国体記念体育館裏の阿武隈川の堤防がいまだに復旧されておらず、民家も多くあり住民の命を守る堤防の早急な復旧が望まれるが。

A 早目（9月上旬）に工事を再開する。

Q 全国学力テスト2位の石川県では、子どもたちの学力向上には指導力が大切と考え、教員の指導力向上の養成に力を入れていく。本市の学力テストは平均レベルであるが、白河の児童生徒も石川県の児童生徒も能力に差はない。

A 今の研修体制を再点検し、教員のさらなる指導力の向上を図ってまいらる。



令和6年廃校となる丘の上の五箇中学校

女性参画・NPO有償運送・再エネ事業等の「地域運営組織」検討を

調査研究を進める



荒井 寿夫 議員

Q 「白河市過疎地域持続的発展計画（案）」のとりわけ行政と協働して事業を行う担い手について問う。まず「SDGsの視点」とは何か。

A 経済、社会、環境の調和がとれ持続可能なこと。

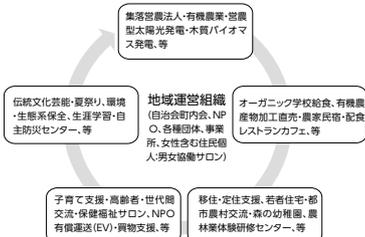
Q その持続可能な調和のためには「多様な利害関係者のパートナーシップ」が不可欠と付言したうえで「エネルギーの地産地消の仕組み」とは何かを問う。

A 地域で創られた再エネを地域内で活用すること。

Q 地域の利害関係者による再エネ設備所有・意思決定・便益地域分配を付言したい。次に過疎対策事業の担い手に関する最近の実践的学術的政策的動向を踏まえ「地域運営組織」の設立を検討すべきでは。それは地域課題を解決するために地域計画の決定に参画して行政の一括交付金を得、地域事業と公共サービスの一部を行政と協働して実行する小学校区の地域の全住民に門戸開放され専門部会制の住民自治組織である。

A 本市ではこの間の地域活性化協議会で成果もあり提案は調査研究の対象に。

「地域運営組織」の過疎地域モデル図



9月は動物愛護週間。市の対応は？

相談案件を把握し、不妊去勢手術の告知へ



大竹 功一 議員

Q 9月には動物愛護週間がある。ボランティア団体は日々、市から紹介された相談業務対応で四苦八苦ししている。動物愛護週間を利用し、特に野良猫への不妊去勢手術推進をPRし、不幸な野良猫の減少を図るべきと考えるがどうか。

A これまでボランティア任せとなっていたと感じている。今後は相談案件を把握し、不妊去勢手術についても市民への告知に努めたい。

Q 小中学校の通学路について、近隣住民の方から危険箇所の指摘を受けた。令和3年度中の危険箇所は学校毎に報告があるが、どのように改善されたのか、伺いたい。

A 通学の仕方や危険箇所の注意喚起等で改善された箇所もあるが、多くは警察や建設部などと連携し検討しなければならない場所である。現在検討中のところであり、早期に改善させる予定である。

